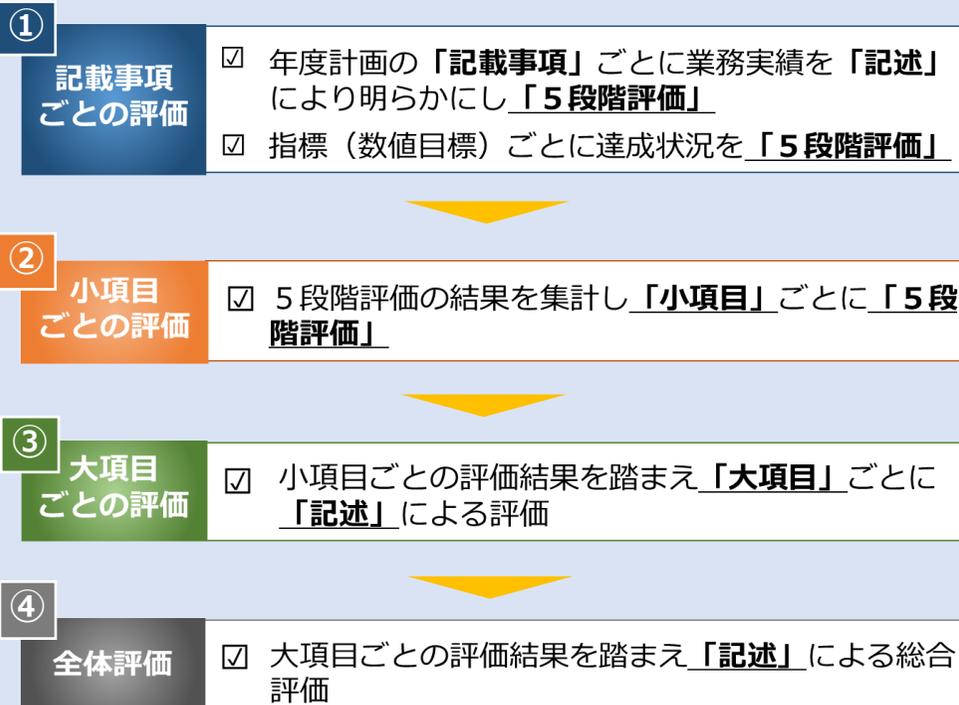


趣旨・目的

- 本報告書は、令和6年度の業務実績について、地方独立行政法人法第28条第1項に基づき知事の評価を受けるため、同条第2項に基づき自己評価の結果を明らかにしたものである。
- なお、本報告書は6月末までに知事に提出し、公表することとなっている。

評価フロー



5段階評価の基準

- S** 年度計画を大幅に上回って達成している（計画値の120%以上）
- A** 年度計画を達成している（計画値の100%以上120%未満）
- B** 年度計画を概ね達成している（計画値の80%以上100%未満）
- C** 年度計画を下回っており改善の余地あり（計画値の60%以上80%未満）
- D** 年度計画を大幅に下回っており大幅な改善が必要（計画値の60%未満）

大項目

- 1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
- 2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置
- 3 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画
- 4 県の保健医療行政への協力と災害発生時の支援
- 5 その他業務運営に関する重要事項

- 令和6年度年度計画に基づき、業務実績について自己評価を行った結果、全ての小項目でB評価以上となったことから、全体として年度計画を概ね達成しているものと評価する。
- 県立病院本来の役割である、高度専門・政策医療の提供について、4病院それぞれが病院機能に応じた医療を提供し、県民の医療水準の向上に貢献するとともに、医師の派遣や地域の医療従事者向けの研修の実施など、地域の拠点病院として地域医療の充実に寄与した。
- 財務面では、過去最高の医業収益を計上したものの、賃上げや物価高騰による人件費、診療材料費の増加により、費用の伸びが収益の伸びを上回り、35億4,100万円の赤字決算となった。

大項目	小項目		R6年度計画記載事項に対する自己評価数				
	項目名	評価	S	A	B	C	D
【大項目1】県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	1 高度専門・政策医療の持続的提供と地域医療への貢献	A	29	69	11	2	0
	2 患者の視点に立った医療の提供	A	8	34	8	0	0
	3 安全で安心な医療の提供	A	4	24	1	0	0
【大項目2】業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	1 優れた経営体に向けた組織づくり	A	1	18	2	0	0
	2 人材の確保と資質の向上	A	0	22	0	0	0
	3 経営基盤の強化	A	3	27	11	0	0
【大項目3】予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画	-	B	0	1	2	0	0
【大項目4】県の保健医療行政への協力と災害発生時の支援	-	A	0	6	0	0	0
【大項目5】その他業務運営に関する重要事項	1 法令・社会規範の遵守	A	0	2	0	0	0
	2 計画的な施設及び医療機器の整備	A	0	2	0	0	0
	3 埼玉県精神医療センター建替えの検討	A	0	1	0	0	0
合 計			45	206	35	2	0
(割合)			(15.6%)	(71.5%)	(12.2%)	(0.7%)	(0.0%)

<総括>

県立病院本来の役目として、県民に対し高度専門・政策医療や患者目線の質の高いサービスを提供し、地域医療に貢献することで県民の健康の確保と増進に寄与した。

小項目 1 高度専門・政策医療の持続的提供と地域医療への貢献 【自己評価：A】

5段階評価(S~D)

P4~24

◎ 県立病院本来の役割である、高度専門・政策医療の提供について、4病院それぞれが病院機能に応じた医療を提供し、県民の医療水準の向上及び地域医療の充実に貢献した。

主な取組と5段階評価

凡例：【R6実績値/R6目標値】

循・呼センター

- S 埼玉県急性期脳梗塞治療ネットワーク（SSN）基幹病院としてハイブリッド手術室を活用した高度な医療を提供
- A 埼玉県急性大動脈治療ネットワーク（SAN）基幹病院B等として救急患者を積極的に受入れ【2,125人/2,000人】
- S 県北部で唯一のTAVI実施医療機関として、高齢者に負担の少ない治療を提供するなど、地域医療の充実に貢献

がんセンター

- S 患者への身体的負担の少ないダヴィンチを用いた低侵襲のロボット支援下手術を積極的に実施【445件/375件】
- S AIを取り入れた治療計画装置を活用し、がん以外の正常組織への影響を最小限とする高精度放射線治療を積極的に実施【433人/320人】
- A 都道府県がん診療連携拠点病院として、地域の医療機関や連携医療機関への情報提供、研修を開催

小児医療センター

- S 出生数が減少する中、1,000g未満の超低出生体重児を積極的に受入れ【49人/40人】
- A 先天性代謝異常等検査の県内唯一の実施機関として、マス・スクリーニング検査を実施
- A 地域医療支援病院として、地域の拠点病院に医師を派遣し、小児医療水準の向上と医療体制の整備に貢献

精神医療センター

- S 県内唯一の児童思春期精神科専門病棟を有する医療機関として積極的に児童思春期の患者を受入れ
- S 特定の医療機関でしか実施できないクロザピン処方を実施【53人/29人】
- S 依存症治療拠点機関として、依存症専門医療機関との事例検討会や、依存症治療拠点機関研修を開催

目標未達成となった指標

③ (がん) エキスパートパネル症例検討数 【198件／250件】

③ (がん) 新規治験件数 【20回／30回】

「困難度高」を設定した指標

目標達成に向けて相当の努力と創意工夫による先進的な取組に努めた項目を「困難度高」として設定

循呼センター

① 夏季の病床利用率を上げる取組の検討

① 救急車による救急患者数 【2,125人／2,000人】

がんセンター

② 逆紹介割合 【25.3%／30.0%】
エキスパートパネル症例検討数

③ 【198件／250件】

小児医療センター

① 小児がん登録数 【92例／90例】

⑤ 超低出生体重児入院数 【49人／40人】

② 小児生体肝移植実施数 【9例／10例】

精神医療センター

① 児童思春期入院患者の実患者数
【72人／68人】

小項目2 患者の視点に立った医療の提供 【自己評価：A】

P25～36

- ◎ 入退院支援センター等による患者への積極的な支援や、患者からの多様な相談への対応など、患者及びその家族の視点に立った医療を進めるとともに、クリニカルパスによる医療の標準化に努めた。
- ◎ 一方、入院・外来共に患者満足度などで目標未達となる指標があり、患者及びその家族のニーズを踏まえた更なるサービスの向上に努めた。

主な取組と5段階評価

- ① (循呼・がん・小児) 入退院支援センター等を活用し、患者に対して入院前から退院後までの切れ目のない支援を実施
- ① (精神) PSWを始めとしたコメディカルなど多職種連携による入退院支援を実施
- ① 患者自ら病院を選択できるよう、ホームページやSNSにより積極的に情報を発信
- ① クリニカルパスの新規作成、既存パスの見直しによる医療の標準化を推進
- ① 患者目線の医療の提供のため、絵や写真を用いたわかりやすい説明を実施

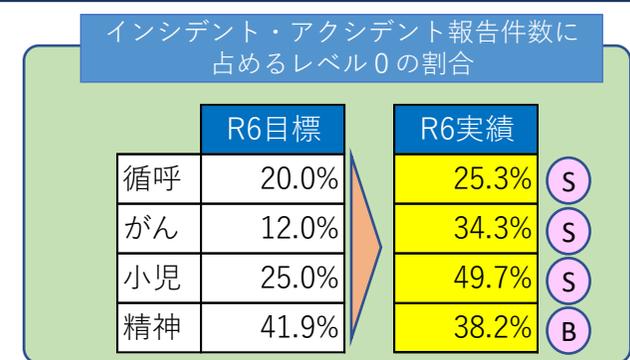
入院患者満足度

	R6目標	R6実績	
循呼	92.5%	90.2%	②
がん	90.0%	88.1%	②
小児	94.7%	94.1%	②
精神	80.0%	86.1%	①

◎ 医療安全対策の推進や感染防止対策に着実に取り組むとともに、災害時にも継続的に医療を提供するための体制を整備するなど、県立病院としての役割を果たした。

主な取組と5段階評価

- A 医療安全管理者会議を開催し、医療安全ラウンドを実施するとともに、各病院の医療安全の取組やインシデント・アクシデント事例を共有
- A 本部及び各病院で情報管理行動計画を策定し、情報セキュリティ対策の実施
- A 院内の感染対策委員会を毎月開催し、感染症対策、多剤耐性菌に係る情報共有を行い、感染防止を徹底
- A 災害発生に備え、非常用食品や医薬品、診療材料を適切に備蓄し管理



<総括>

人件費や物価が上昇する中、法人化の利点を生かした業務運営を進め、効率的で質の高い医療の提供に取り組むとともに、診療を支える人材の確保・養成に努めた。

小項目 1 優れた経営体に向けた組織づくり 【自己評価：A】

P47～53

◎ 経営サポートチームにおいて経営上の課題を共有し、課題解決に向けた取組を推進したほか、RPAソフトウェアやAI等を活用することで職員の負担軽減及び業務効率化の取組を推進した。

主な取組と5段階評価

- A 各病院長を役員（理事）とし、各病院長に医師の実績評価や予算執行上の権限を与え、病院経営における病院長のガバナンスを強化し、課題に迅速に対応できる体制を継続することによる効率的な業務運営を実施
- A 機構本部において、経営担当理事及び企画幹を中心に企画部門と財務部門が連携し、各病院現場と議論を重ねながら、診療報酬算定の適正化、外来予約に係る業務フローの見直しなどの業務改善を推進
- A 毎月定例的に理事会を開催し、予算や重要事業などについて適時適切に機構としての意思決定を行い、理事長のリーダーシップによる業務運営体制を確立
- A 毎月、理事長、各病院長など幹部が一堂に会する経営戦略会議を開催、経営状況やKPIの進捗状況を確認、経営課題の共有を行うなどガバナンスを強化
- A 年度目標に掲げる目標値を中心に、独自に定める目標値を含めて進捗管理を行い、毎月のモニタリングを実施
- S 定例業務を自動化するRPAプログラムの作成を推し進めるとともに、AI等を活用することで業務効率化を推進
- A 病院への臨床心理士の派遣を行うメンタルヘルスケア対策を実施

職員満足度			
	R6目標	R6実績	
循呼	70.0点	72.4点	A
がん	65.0点	68.4点	A
小児	69.0点	65.8点	B
精神	74.8点	74.6点	B

◎ 医療人材の確保に向け、看護師養成校と連携した説明会などによる看護人材の確保や、研修医及び実習生の積極的な受入れにより、未来の人材確保につながる取組を進めた。

主な取組と5段階評価

- A 医療人材確保のため、看護師養成校との連携により就職説明会の開催や、インターンシップによる看護学生の受入の実施
- A 埼玉県立大学との連携協定の取組の一つとして、新人看護師向けのメンタルヘルスに関する講義を実施
- A 病院間での相互派遣、繁忙期における兼務の活用などによる柔軟なマンパワーの確保
- A 認定看護師の資格取得支援の実施
- A 小児医療センターにおいて厚生労働省から看護師の特定行為に係る研修機関として指定され、院外受講生も参加する研修を実施

◎ 前方後方連携の推進による新規外来患者の受入や未収金の早期回収等に努めて収入を確保した。また、共同購入対象品目の拡大や後発医薬品の採用促進など、経費削減に努めた。

主な取組と5段階評価

- A コンサルタントと協働し、カルテ点検によるレセプト精度診断結果を各診療科にフィードバックし、収益力を向上
- A 共同購入対象品目の拡大に取り組み、共同購入品の新規採用を推進
- A 後発医薬品の供給が安定しない中でも高い水準の後発医薬品使用割合を維持することで、コストを削減

病床利用率

	R6目標	R6実績	
循呼	77.4%	64.1%	B
がん	81.9%	72.4%	B
小児	83.5%	85.1%	A
精神	84.2%	82.2%	B

後発医薬費の割合【困難度高】

	R6目標	R6実績	
循呼	90.0%	94.7%	A
がん	93.0%	92.4%	B
小児	75.0%	79.8%	A
精神	80.0%	83.3%	A

大項目3

予算（人件費の見積もりを含む。）、収支計画及び資金計画

P72～74

<総括>

令和6年度決算は、過去最高の医業収益を計上したものの、賃上げや物価高騰による人件費、診療材料費の増加により、費用の伸びが収益の伸びを上回り、▲35億4,100万円の純損益となった。

	令和6年度決算	計画比
収入	647億5,200万円	▲44億6,300万円
医業収益	489億5,200万円	▲42億3,000万円
入院収益	323億9,100万円	▲31億4,300万円
外来収益	149億8,400万円	▲12億3,300万円
その他医業収益 （室料差額収益等）	15億7,700万円	1億4,700万円
運営費負担金	143億4,900万円	0万円
その他営業収益 （補助金収益等）	14億5,100万円	▲2億3,300万円
支出	682億9,300万円	▲20億1,900万円
医業費用	637億6,100万円	▲14億700万円
一般管理費等	8億3,800万円	▲4億3,800万円
営業外費用	36億6,200万円	▲1億9,200万円
臨時損失	3,200万円	1,900万円
純損益	▲35億4,100万円	▲24億4,400万円



大項目 4 県の保健医療行政への協力と災害発生時の支援

P75～77

<総括>

4 病院それぞれが、県の中核病院として救急医療や地域への医師派遣など県の保健医療行政に協力するとともに、災害対応体制の構築に取り組んだ。

主な取組と 5 段階評価

- Ⓐ (循呼) 埼玉県急性期脳梗塞治療ネットワーク (SSN) 基幹病院として県北の脳疾患の急性期患者に積極的に対応
- Ⓐ (がん) 埼玉県のがん診療連携拠点病院として県内の医療機関への情報提供等を実施
- Ⓐ (小児) 県内医療機関への小児科当直医派遣を実施
- Ⓐ (精神) 保健所の技術協力や講演会の講師派遣などによる積極的な貢献

大項目 5 その他業務運営に関する重要事項

P78～83

<総括>

県立病院として、職員一人ひとりが法令、社会規範を遵守するための取組を確実に行うとともに、必要性や費用対効果等を総合的に勘案し、計画的に施設や医療機器の整備を進めた。

小項目 1 法令・社会規範の遵守 【自己評価：A】

P78～79

- ◎ 倫理観や社会規範の啓発を進めるとともに、透明性の確保を図るため、各病院のホームページや SNS などで積極的な情報発信に取り組んだ。

小項目 2 計画的な施設及び医療機器の整備 【自己評価：A】

P80～81

- ◎ 緊急性、必要性を考慮し、費用対効果を検証しながら計画的な施設及び医療機器の整備を進めた。

小項目 3 埼玉県立精神医療センター建替えの検討 【自己評価：A】

P82～83

- ◎ 精神医療センターにおいて在り方の検討を進めるとともに、他病院の建替事例や先進事例の把握・意見交換を行った。